# CISPRニュース：新しい要求事項

**Jan Sroka**
Professor
University of Warsaw

## 要約

EMC 試験による再現性については依然として大きな改善の余地がある。CISPR グループは常にこのテーマに取り組み続けている。CISPR 11 + A1 文書は2010年に発行された。この文書は既に、既存規格を2015年に差し替える通常のメンテナンス改定状態にある。コモンモード吸収デバイスの必須適用、EUT の体積（EUT volume）の正確な定義、小型の EUT が確実に放射エミッションの再現性を改善することなど、この文書には新しい規則が記載されている。伝導エミッション測定において明らかな見落としによる曖昧さがある場合、特別なアース端子の対応を行えば、再現性の問題は解消されるだろう。

## はじめに

CISPR 11 + A1 は2010年に発行された。この文書は既に、既存規格を2015年に差し替える通常のメンテナンス改定状態にある。測定の再現性を改善する多くの規則が、この改定に含まれている。例を挙げると、

- 1GHzまでの放射エミッション測定に対するコモンモード吸収デバイスの必須の使用法
- EUTの体積を正確に定義
- アース端子の接続

読者はこういった要求事項を熟知し、予定通りに採用する必要がある。

CISPR 会議に関する長年の議論の後、EUT に接続しているラインのコモンモードインピーダンスは、1GHz 以下の放射エミッションに有意な影響があることに専門家たちは同意した。特に小さな卓上機器に関係する[1]。したがって、コモンモード吸収デバイス（CMAD: Common Mode Absorbing Device）を、電源入出力や通信と信号ラインなど全てのラインに挿入することが要求される。CMAD は、ラインの終端インピーダンス上でコモンモードインピーダンスを個別に安定化させるはずである。

参考文献 [2] 内で CMAD の技術仕様は確立されている。参考文献 [3] は、その技術仕様に準じて CMAD の使用法が必須と